

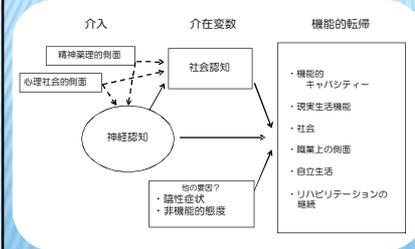
統合失調症の認知機能障害への介入に関する1症例を通じた検討

医療法人社団 五稜会病院
 ○春名大輔, 山田寿代, 鍛冶志保里,
 中島公博, 千丈雅徳

平成25年11月15日
 第2回日精協日本精神科医学会学術大会(大宮)

はじめに

近年、統合失調症において、神経認知機能や社会認知機能の障害に注目が集まっており、それら機能障害への介入法が開発されている。



本研究では、神経認知機能と社会認知機能への介入を実施した1症例の転帰を通して、介入の効果を検討した。

Figure1. Green MFとNuechterlein KHによる統合失調症における神経認知、社会認知、機能的転帰の関係モデル (Gaebel W, 2011, p83, の図を改変して転載)

ケース概要

20代 女性

- X-6年自分の悪口を言われると精神科を初診。入院歴有り、服薬の自己中断することも数回みられた。
- X-5年高校入学するも7月から悪口を言われると不登校。
- X年1月、家族に何も告げずに北海道から九州へ行き、拒薬、幻聴活発、独語、興奮で3回目の入院。
- X年4月、転居に伴い当院初診し、同月よりデイケアを開始。

介入概要

神経認知への介入

- パソコンゲームを利用
- 週に1回、1時間程度実施
- 開始時、6か月後、12か月後に検査による評価を実施

社会認知への介入

- SCIT (Social Cognition and Interaction Training:中込他監訳, 2011) を参考に実施
- 表情写真を利用した感情推測や結論への飛躍の対処等
- 週に1回、80分程度
- 計15セッション実施

介入経過

デイケア開始

- ・興味関心高く取り組む
- ・ゲーム上の成績は中程度

- ・自ら課題を立てて取り組む
- ・ゲーム上の成績も向上

Pre評価

Post①評価
(6ヶ月後)

Post②評価
(12ヶ月後)

神経認知への介入

社会認知への介入

- ・積極的に参加
- ・思考の幅が狭い印象

他スタッフの評価では表現の豊かさが向上

1ヶ月後

3ヶ月後

7ヶ月後

12ヶ月後

神経認知機能の変化

Table1. 神経認知機能の評価検査の推移

	Pre	Post① 6か月後	Post② 12ヶ月後		Pre	Post① 6か月後	Post② 12ヶ月後
WAIS-III				COGNISTAT			
符号	8	13	14	見当識	8	10	10
行列推理	3	8	6	注意	10	10	10
数唱	8	6	7	理解	10	10	10
知識	10	11	13	復唱	9	11	11
推定IQ	78	96	100	呼称	9	9	9
符号対再生	13	15	12	構成	11	11	11
符号視写	117	133	133	記憶	9	10	10
Trail Making Test				計算	10	10	10
TMTA	72秒	89秒	86秒	類似	8	6	9
TMTB	86秒	88秒	66秒	判断	8	9	8

Note: 評価尺度はWAIS-III短縮版、符号追検査、日本語版COGNISTAT、Trail Making Test. 赤字は平均あるいは正常域未満。

結果

- 神経認知機能は検査による変化からは改善と低下の両方が認められた。ゲーム上の成績は向上していた。本人からは、「忘れ物が減った、忘れたことを思い出せるようになった（4ヶ月後）」「話が理解し易くなった（12ヶ月後）」との報告があった。
- 社会認知機能は直接評価しておらず、客観的な判断は困難であった。しかし、他スタッフの評価によると、対人関係上の変化がみられている可能性が示唆される。
- 介入期間を通して、デイケアでは順調に活動を続けてきている。他プログラムに積極的に参加したり、役割を担っていた。社会的な活動を維持できていた。

考察

- 評価検査の推移やゲーム上の成績から、短期記憶や法則性の推論、言語の抽象的な操作の改善がみられており、日常生活での記憶力や理解力の向上に繋がったのかもしれない。
- 表現の豊かさの向上は、結論への飛躍への対処やブレインストーミング、感情推測などの介入により、コミュニケーションの取り方のレパートリーが増えた結果であるのかもしれない。
- 寛解には至ってはいないが、過去の経過を考慮すると良好な転帰を維持していると考えられる。その維持には、両認知機能障害への介入も寄与していると考えられ、両介入が有効であることが示唆された。

まとめと課題

- ☑ 認知機能障害への介入によって機能の改善が得られ、良好な転帰の維持に寄与した可能性が示唆された。
- ☑ より改善が得られるようプログラム内容を工夫すること、客観的な評価を検討すること、複数の症例で検討することが今後の課題といえる。

【文献】

- Gaebel W (2011) Schizophrenia : *Current science and clinical practice* WILEY-BLACKWELL
- David, L. R., David, L. P., & Dennis, R. C. (2009). *Social Cognition and Interaction Training(SCIT) Treatment Manual*.
- (中込和幸・兼子幸一・最上多美子 (監訳) (2011). 社会認知ならびに対人関係のトレーニング (SCIT) 治療マニュアル 星和書店)